

推 奨 品 種

露地夏秋どりきゅうり「クライマー1号」, 「北輝皇」

(園試 野菜花き部・南部分場)

1. 来歴

1) 「クライマー1号」: 「北の夏×かっさい」の後代選抜系統と、「貴婦人×T-3」の後代選抜系統の一代雑種で、平成元年に命名発表された。

品種育成元 埼玉原種育成会

2) 「北輝皇」: 「南極1号」の後代種と、「清涼白イボ×芯止系」の後代種の一世代雑種で、平成2年に命名発表された。

品種育成元 カネコ種苗

2. 特性の概要

1) 「クライマー1号」

葉は濃緑でやや小さいが、側枝は太く発生が多い。収量は「南極1号」より高く、果形はまとまりの良い円筒形である。果色は濃緑で、光沢に優れている。

2) 「北輝皇」

葉は濃緑で、やや大きい。また側枝の発生も多く、晩播適応性が比較的大きい品種である。収量は「南極1号」より高く、果形はまとまりの良い円筒形で、生育期間を通して安定している。果色は濃緑で光沢も良い。

3. 推奨品種に採用したい理由

ここ数年、ブルームレス台木使用のきゅうり栽培が普及してきたことにより、果実の高品質確保とともに、安定生産が課題となっている。

「クライマー1号」および「北輝皇」は品種特性として側枝の発生・伸長および着果性が良好であることから、気象に対応した適切な栽培管理を実施することにより、安定的に多収を得ることができる。

また、両品種とも果実品質および良果率が「南極1号」並かやや優り、現地における試作結果でも販売上問題なかったことから、「南極1号」に加えて推奨品種として採用したい。

4. 適応地域

1) 適応地域 県下全域 (普及見込面積, 各30ha)

2) 適応作型 クライマー1号: 露地普通作型

北輝皇: 露地普通作型および露地抑制作型

5. 栽培上の留意点

1) 「クライマー1号」

(1) 高温で草勢が低下しやすく、さらに干ばつが加わることにより助長される傾向である。

(2) 整枝・葉かき・追肥等の栽培管理は遅れないように実施して、生育中後半の草勢維持を図る。高温・干ばつが続く場合は、品質・収量が低下しやすいので、液肥施用を兼ねた灌水を実施する。

2) 「北輝皇」

(1) 草勢が旺盛なので過繁茂となりやすい。

(2) 草勢を強くし過ぎないように、若苗定植を避けるとともに、側枝の摘芯は早めに確実に行う。

(3) 葉がやや大型であるので、摘葉は遅れないよう、順次実施する。

6. 試験成績概要

表-1 収量・品質

(平成2年 野菜花き部)

項目 品 種	良・曲果 合計収量 (kg/a)	同左 対比 (%)	果実品質別収量割合(%)					
			良果	曲果	尻太	尻細	くず	黄斑
(標)南極1号	1,527	(100)	62.5	21.1	3.8	3.8	8.5	0.3
クライマー1号	1,330	87	60.4	18.1	2.5	10.0	8.5	0.5
ほっきこう	1,846	121	64.5	21.4	4.3	2.3	7.0	0.5

表-2 収量・品質

(平成3年 野菜花き部)

項目 品 種	良・曲果 合計収量 (kg/a)	同左 対比 (%)	果実品質別収量割合(%)					
			良果	曲果	尻太	尻細	くず	黄斑
(標)南極1号	880	(100)	67.4	22.3	2.6	4.2	3.2	0.3
クライマー1号	996	113	65.6	23.0	1.7	4.9	4.7	0.1
ほっきこう	938	107	65.3	23.0	4.2	4.2	3.1	0.2

表-3 収量・品質

(平成3年 南部分場)

項目 品 種	良・曲果 合計収量 (kg/a)	同左 対比 (%)	果実品質別収量割合(%)					
			良果	曲果	尻太	尻細	くず	黄斑
(標)南極1号	863	(100)	51.4	18.2	6.8	0.9	22.4	0.3
クライマー1号	1,260	146	60.9	18.8	4.5	1.3	14.3	0.2
ほっきこう	1,103	128	56.2	19.4	7.1	0.7	16.3	0.3